

整形外科卒後臨床研修プログラム

I. 研修プログラムの目的及び特徴

この研修プログラムは千葉県済生会習志野病院整形外科が作成したプログラムである。初期研修必修科目を終了した医師が、将来整形外科を標榜する場合、あるいはしない場合においても、整形外科医療を実践することにより、その基本的診察法、検査、手技、治療法などを学ぶことを目的とする。

この研修プログラムを実践することで、

1. 骨・関節・筋・神経などの運動器特有な病態を理解できる。
2. 整形外科特有の医療面接，診察方法，治療行為を経験できる。
3. 機能障害をもった患者や家族の心情に触れる良い機会となる。
4. 将来，医師として人間として成長していくうえでの貴重な体験となりうる。

II. 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者：原田義忠(副院長)

III. 研修指導医

研修担当責任者：原田義忠

指導医：鳥飼英久、井上雅俊

IV. 研修プログラムの管理運営

研修期間中は指導医によって教育、評価が行われる。

V. 募集定員 若干名

VI. 教育課程

1. 研修開始年度 平成 25 年4月1日
2. 期間割と研修医配置予定

病棟回診やカンファレンスを通して、整形外科の基本的な医療面接，診察方法，治療行為を習得できる。基本疾患としては、脊椎疾患、関節疾患、リウマチ性疾患

骨代謝疾患、手の外科疾患、外傷を診療することができる。

3. 一般目標

- (1) 全ての臨床医に求められる基本的な臨床能力(知識、技能、態度、判断力)を身につける。
- (2) 患者の年齢や性別にかかわらず、緊急を要する疾病や外傷、頻度の高い症状・病態に対する初期診療能力を身につける。
- (3) 患者の有する問題を身体的、精神心理的、および社会的側面から全人的に理解し、適切に対処できる能力を身につける。
- (4) 患者および家族との望ましい人間関係を確立しようと努める態度を身につける。
- (5) チーム医療の原則を理解し、他の医療メンバーと協調できる。
- (6) 適切なタイミングで、コンサルテーション、患者紹介が出来る。
- (7) 診療録やその他の医療記録を適切に作成できる。
- (8) 保険診療や医療に関する法令を遵守できる。
- (9) 自己評価を行い、第三者による評価を受け入れ、診療にフィードバックする態度を身につける。
- (10) 生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

整形外科臨床研修カリキュラム

I 救急医療

一般目標

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診察能力を修得する。

行動目標

1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
4. 脊髄損傷の症状を述べることができる。
5. 多発外傷の重症度を判断できる。
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
8. 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。

10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

II 慢性疾患

一般目標

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。

行動目標

1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線像、MRI、造影像の解釈ができる。
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
5. 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
6. 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
7. 理学療法の処方ができる。
8. 後療法の重要性を理解し適切に処方できる。
9. 一本杖、コルセット処方が適切にできる。
10. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。
11. リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる。

III 基本手技

一般目標

運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。

行動目標

1. 主な身体計測 (ROM, MMT, 四肢長、四肢周囲径) ができる。
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。
(身体部位の正式な名称がいえる。)
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。
4. 神経学的所見がとれ、評価できる。
5. 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。
 - iii) 靭帯損傷 (膝、足関節)
 - iv) 神経・血管・筋腱損傷
 - v) 脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得

- vi) 開放骨折の治療原則の理解
- 6. 免荷療法、理学療法の指示ができる。
- 7. 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。
- 8. 手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。

IV 医療記録

一般目標

運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。

行動目標

1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー歴、内服歴治療歴
2. 運動器疾患の身体所見が記載できる。
脚長、筋委縮、変形(脊椎、関節、先天異常)、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL
3. 検査結果の記載ができる。
画像(X線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム)、血液生科学、尿、関節液、病理組織
4. 症状、経過の記載ができる。
5. 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる。
6. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる。
7. リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる。
8. 診断書の書類と内容が理解できる。

V. 週間研修スケジュール

- | | | |
|-----|---------|------------------------|
| (月) | 午前8:30～ | カンファレンス |
| | 午前9:00～ | 病棟業務、救急診療 |
| (火) | 午前8:30～ | カンファレンス |
| | 午前9:00～ | 病棟業務、手術 |
| (水) | 午前8:30～ | カンファレンス |
| | 午前9:00～ | 病棟業務 |
| | 午後2:00～ | 検査(脊椎造影検査、神経根ブロック注射など) |

- (木) 午前8:30～ 手術
- (金) 午前8:30～ カンファレンス
午前9:00～ 病棟業務、検査(脊髄造影検査、神経根ブロック注射など)
- 午後5:00～ リハ科との合同カンファレンス
- (土) 午前8:30～ 交代で病棟業務

VI. 評価方法

1. 研修医は、研修終了日に研修内容についての発表をおこなう。
2. 指導医により、各到達度目標に対する評価、総合評価が行われる。
3. 研修医は、各到達度目標に対する自己評価表を提出する。